

愛犬とつくる楽しい毎日

12

ドッグ・ワールド

12月  
2005年  
580円

# Dog World

吉永みち子のおしゃべりタイム  
経演ジャーナリスト 荻原博子さん  
& 黒柴

写真の撮り方からパソコンアレンジまで  
年賀状づくり大作戦

プラークを落として  
歯周病を防ぐ

伝説の日本犬  
紀州犬の里を訪ねて

アメリカ、スウェーデン、フランス、ドイツ、  
チェコ、デンマーク、カナダ、イギリス

おもしろルポから

犬連れ海外旅行マニュアルまで

## 世界8カ国

# ディープな犬事情

from

## Atlanta

[アメリカ・アトランタ]

ペットも家庭内暴力の犠牲に  
虐待を受ける飼い主と犬を救え!

ペットのことを案じ  
暴力から逃げ出せない現状

些細なことでも進化した夫は、泣き止む五人の子供達と妻を振り切った。無邪気に尻尾をふる生後数ヶ月の子犬をおもいきり振り飛ばした。鈍い音と共に小さな体が宙に舞い、床に落ちた。

ジョージア州郊外に住む七人家族に飼われていた、タイニーティムと呼ばれる雄の黒ラブミックス犬にとって、この事件は悪夢の幕開けだった。妻の子供にも暴力をふるっていた夫は、犬にも怒りをぶつけ、一歳半になる頃には、右大腿骨は複雑骨折し、腰にはプラスチックが突き込まれ歩行困難になっていた。

「次は、殺される!」

恐怖にかられた妻は、子供達と犬を連れ、地元の家内暴力の被害者用シェルターへかけこんだ。

四人に一人の女性が、夫やボーイフレンドに暴力をふるわれた経験を持つといわれるアメリカでは、ドメスティックバイオレンス(家庭内暴力)は深刻な社会問題だ。

American Institute on Domestic Violence (家庭内暴力研究所)によると、毎年五〇〇万人を超す女性

が虐待を受けており、毎年、一三二三人が殺害されている。

家庭内暴力の被害者を保護するシェルターは各州にあるが、被害者が飼っているペットは受け入れてもらえないのが現状だ。

「犬を飼っている被害者の多くは、犬を家に残して逃げたから、犬がどんなひどい目にあったか心配のために家を出ることができない、というのが最近の調査でわかっています。私も可愛がっていた猫の行き場がなくて、なかなか逃げ出せなかった。虐待されている女性の気持ちはよくわかる。」

と語るのはエミリー・クリスティー。家庭内暴力の被害者たちが新生活をスタートさせるまでの間、無償でペットを預かるサービスをおこなっている。AMERICA'S HOUSING (アヒムサ ハウス)の創立者だ。彼女もまた、かつて家庭内暴力に苦しんだ過去を持つ。立場の弱い者への暴力がなくなるようにと願いを込め、インドのサンズクリフト語で「非暴力」という意味の「アヒムサ」と名づけた。

かなりの需要があるにもかかわらず、こうしたサービスは全米でも珍しく、ジョージア州では初めて。昨年六月

の発足時から一四ヵ月間で、七〇匹のペットを保護した。「大多数は犬だけれど、猫、モルモット、鳥、それにイグアナも預かった」とエミリー。

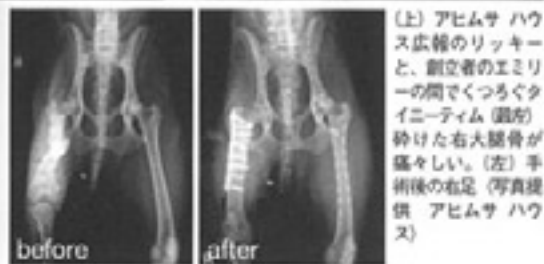
被害者である飼い主が加害者から自立し、新しい場所で生活を始めた時点で、ペットを救す。「どんなにひどい虐待を受けても、動物達は立ち直るの人間よりずっと上手。被害者が家庭内暴力で傷ついた心を癒すのにも、ペットの存在はとても重要なんです」とクリスティー。

重傷を負ったタイニーティムも、アヒムサハウスに命を助けられた。三ヵ月に及ぶ滞在で、右足の手術と手厚い看護を受け、心身ともに回復した人懐っこい犬に、暗い虐待の影は見当たらない。約四〇〇〇ドル(四四万円)かかった医療費も、民間の寄付でまかなわれた。

引越先でペットを飼えないなどの理由で、どうしても引き取れなくなった場合は、地元レスキューグループと協力して里親を見つけることも。

アヒムサハウスでは、二四時間体制でボランティアが待機しており、被害者の要請があれば州内どこへでも出向き、ペットを引き取ってくれる。加害者に探してあげられないよう、ペットの預かり先は極秘。飼い主にも、ペットの暮らしぶりは細かく通知されるが、滞在先まで知らされることはない。

「家庭内暴力の被害者は、女性や子供だけではありません。詳しい頭数は把握されていないけれど、膨大な数の動物達が虐待を受けているのが現状。動物達を保護し、話すことができない彼らに代わって虐待を告発するのが、私達の役目です」とエミリーは目を輝かせた。



(上) アヒムサハウス広場のリッキーと、創立者のエミリーの間でくつろぐタイニーティム(雄)が砕けた右大腿骨が傷やしい。(左)手術後の右足(写真提供 アヒムサハウス)